



す ん な ぶ り

Vol. 2. No 2.

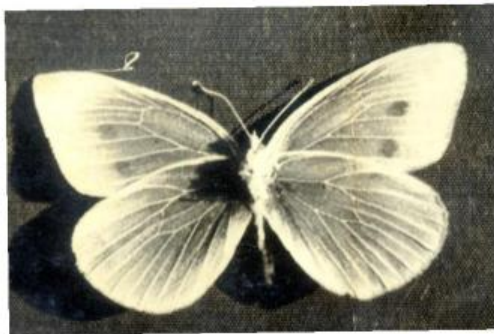
~~~~~ 1958, January ~~~~~

川内昆虫同好会

目 次

|                          |               |    |
|--------------------------|---------------|----|
| モンシロチョウの黒化型を採集 .....     | 佐竹 新 .....    | 2  |
| 山川 開聞嶽 蝶採集記録 .....       | 坂口 邦彦 .....   | 2  |
| 川内市周辺の蝶採集補遺 .....        | 佐竹 新 .....    | 3  |
| Kさんを憶う .....             | 田村 勝 .....    | 4  |
| 紹介と消息 .....              | 編 集 子 .....   | 6  |
| きりじま 蝶採集記 .....          | 佐竹 新 .....    | 8  |
| 泊野小学校から猿尾山頂間に見られる蝶 ..... | 角 園 栄 男 ..... | 11 |
| 蝶の発生を待つ採集子 .....         | 永 田 幸 吉 ..... | 12 |
| 雑 記 .....                |               | 14 |
| 編 集 後 記 .....            |               | 16 |

佐竹新氏 採集撮影の モンシロチョウの 黒化型



(参考) 異常形 (Adherent form) について (野村健一著「昆虫学入門より」)  
 個体変異の範囲をこえて 極端に色彩や斑紋の変わった個体を異常形と云う。蝶類  
 ではこれらについても名を付けることもあるが、一般にその個体限りのもので遺  
 伝しない。但しそれが突然変異の場合は別である。単に外形のみでは判断不可能。  
 (江崎野村氏によるモンシロチョウの黒化型と白化型の写真あり。)



## モンシロチョウの

### 黒化型を採集

佐竹 新

モンシロチョウの黒化型を(18)採集したので 報告する。~~写真を掲示出来な~~  
~~い~~ ~~のが残念であるが~~ 表面は前翅中室に濃黒鱗を帯び 後翅はとくに黒化はなほだしく  
基部分から前縁 後縁は漆黒色を呈している。 また裏面は前翅中室から黒斑紋まで  
黒化 後翅の黒化はもっともはなほだしく 前後縁の一部 及び外縁をのこして黒化  
している。

データは 次のとおり

(採集月日) 1957. X 2 午前10時 快晴

(場 所) 川内市宮内町南花木 横山正元氏方 ガルらん畑

(頭数・性別) 1 ♂ (以上)



## 山川開聞嶽 蝶採集記録

川内北中学校2年生 坂口邦彦

1957年9月23日 及び 11月23日の2回にわたって 山川町及び  
開聞嶽で(さつみ半島南端)採集したので その主なものを報告いたします。

### ▼ 9 月 23日

十町附近から 鹿門1 目目付近にかけて 小雨時々曇の天候ながら

アオタテハモドキ 1♀ 9目目付近で アカギマダラ 3♂ を採

集 山頂では メスアカムラサキ 1♂ キアゲハ 1♂ アサギ

マダラ 1♂ を採集 西川尻付近では快晴となり 1目目付近

~2~



で シルビアシジミ 2♀ タイワンツバメ 1♀ 2♂ 麓では シルビアシジミ 3♂を採集した。

▼ 11月 23日

天候は快晴ながら風が強くと期的におそいと思われたが 西川尻付近では アオダテハモドキ 2♂ アサギマダラ 1♀ クロコノマ 1♂ シルビアシジミ 2♂を採集 南門嶽8層目付近では ツマベニチョウ 1♀1♂ 頂上では メスアカムラサキ 1♀をそれぞれ捕集 ツマベニ1♂ を目撃した。(了)



### 川内市周辺の蝶相補遺



佐 竹 新

「すみながし」創刊号に記した「川内市及びその周辺の蝶相」をまとめたあとになり 次のような追加訂正が必要となったので 記しておく。

#### ○○○ 新産地

(下栗郷弓村丘) 1957年10月初旬かけ メスクロヒョウモン キアゲハ アサギマダラ ムラサキシジミ クロコノマ タイワンツバメ を確認 又8~9月にかけて オオウラギンヒョウモンを確認

(高城村麓) クモガタヒョウモン オオウラギン ミドリヒョウモン を確認。

(日笠山) アサギマダラ イシガキチョウ キマダラセセリ ヒメキマダラセセリを確認。

#### ○○○ 訂正

冠嶽 及び 日笠山 寺山のうち ミヤマチャバネセセリを削除

以上を1958年1月現在で 追加訂正いたします。

(了)

## Kさんを憶う

田村 勝

昭和16年と云えば 真珠湾を日本軍が攻撃した年です。その年の7月はじめの或る日の午後でした。私は舞鶴市内の四岳山三角点で 例によって唯一人ネットを振っていました。丁度オオムラサキを何頭か採集して 三角点の標口に腰をおろした時でした。誰も居ないと思っていた山道を青白い神圣臭そうな中学生が一人 私のある三角点を目指して登ってくるのをみつけました。その中学生はやがて頂上近くなり 横を見て初何にも人なごく にっこりわらいました。それがKさんでした。それからと云うもの。昭和21年 鹿児島に転居するまで 唯一人の虫友として 随分一精にあちらこちらと歩きまわったものでした。Kさんにまっわる想い出は 数限りなくあります。ウラクロシジミを取りにがしたといって 罎をかきむしって口惜しがったKさん 私がウラギンシジミを1をやって採集し まだ三角紙の中で生きているのを見せた時 今からオウにもう一度行こうと頑張って どうとうその日の夕方までに 合計ある♀1の成果をあげたのも記憶に生々しいところです。

モンキアゲハの小洪北限説を 昆虫界(加藤正英)に発表する為二人でモンキアゲハを何丁瀬とあつめたこともありました。又九州の虫友がよろこぶからと ギフチョウを三角紙に入れて箱一杯持っていたのもKさんです。私が函丹中学校弁論大会で「地理的に見た舞鶴の昆虫相」という題名で 北方系の昆虫やその食草の関係から盤纏陥没説をどなえて 見事第一席の栄を受けたのもKさん援助に負う所が大きかったと 今だに感謝しています。

真冬の昆虫採集の妙味を教えてくれたのもKさんでした。雪がまっ白にふんだ日曜日友達はスキーをかって山登りするのに Kさんと私は何と小型のくわをかって山に登ったものです。山にはとところどころに小さながけがあります その一番上の所には、



登山家の広うクレパスのようになったところがあります。そこを注意深くほるので、所々に卯大の穴がぽっかりあいて コマイマイカブリ クロナガオサムシ アキタクロナガオサムシ アオオサムシ マヤサンオサムシなどの大型のオサムシが純白の雪の上をゴソゴソとはいまわります。小さいかわいた赤立のがけからは アオゴミムシ オオキベリアオゴミムシ スヂアオゴミムシ オオヨツボシゴミムシ、ヨツボシゴミムシなどがでできます。Kさんと アキタクロナガオサムシと オオキベリアオゴミムシを どちらが早く採集するか競争してアキクロナガオサムシなど特殊なものだけに絶感近くなったこともありました。

昆虫趣味 それは 四季を通じて変わる事のない 浴臭をはなれた敏長恍惚のスポーツです。

私は 昭和20年特別幹部練習生として海軍に入りましたが その前に所蔵標本を全部 舞鶴二中(現舞鶴乗務校)に寄贈しました。今考えると惜しい気がしなくてもありませんが……。その中には交換で得た南米モルホ蝶など海外産の蝶、琉球 台湾産の珍品数丁種の蝶や甲虫がふくまれていました。しかしほんとうの興趣はやはり自ら採集した標本にあるようです。今の私は一点の標本も持っていませんが 私は昆虫図鑑が一冊あればそれで充分なのです。その一種一種に色々な想い出があるので 次から次に興味をつきる事がありません。所変われば品変わるという事は昔からいわれれておりますが昆虫もまた同じ事です、川内にいない、オオミドリシジミ、ウラクロシジミ ウスバシロチョウ スジボソヤマキチョウ ギフチョウ ウラキンシジミ アカシジミ ウラナミアカシジミ フジミドリシジミ等も舞鶴の近郊で採集することができますが一方 イシガキチョウ、ミカドアゲハ ナガサキアゲハ タテハモドキ、サツマシジミ があり 霧島には キリシマミドリシジミ 南に行つて ツマベニチョウ アオタテハモドキ メスアカムサラキ シルビアシジミ アマミウラナミシジミ等限りない蝶相があります。甲虫についていえば 京都 舞鶴地方には ルリボシカミキリ キョウトアオハナムグリ キョウト

ハナムグリ アキタクロナガオサムシ ウシオザン センチコガネ ムラサキセンチコガネ 等が採集されていますが 川内鹿島には 蝶同様の珍品 珍種がいるにちがいないと思われます。

昨秋 富士屋で催された 昆虫展を見せて頂いて その前日まで思い出すこともなかつた虫の数々 そしてれさんが急になつかしくなり 浅学もがネリミオペンを取った次第です。いわば オールドファンの記憶による漫筆ですので 誤りもあるかと思ひます。御覧村さの実は 御叱正 御教示下さいますようお願いいたします。 (了)

( 筆者は 川内市朝日ドライ勤務 川内市楠元町2299 住 )



## 紹介と消息



( 編集子記 )

- ◇ 其隆館発行の全国的昆虫雑誌 月刊「新昆虫」のVol 10 No12 December 1957の「同好会記月評」の頁に わが川内昆虫同好会誌「すみながし」について出ていたので お知らせする意味で転載します。なお激羽をいただいたことにつき本欄を通じ感謝致します。

「すみながし」1号 先ず本誌の創刊をお祝ひしたい。田代先生の「発刊によせて その他諸先生の祝辞につづき 以下の諸論文が掲載されているが 全体を通じてケンキョな そして又熱心さにあふれた感じで好感がもてる。今後の御発展を心からお祈り申し上げたい。

- ◇ 川内昆虫同好会の一般会員として頑張っておられた 横山雅次氏が 八幡市へ転出されましたので お知らせいたします。

一般会員の少ないこの会であり 非常に残念ですが 氏の御健闘をお祈りいたしたいと思ひます。



◇ 鹿児島昆虫同好会発行の機関誌「SATSUMA」1957. December  
vol. IV, no. 3/4 第16号に川内昆虫同好会の次の2氏原稿がありますので紹  
介いたします。又本欄を借りて激励をいただいたことを感謝いたします。

佐竹 新氏 ○川内市及びその周辺で確認された蝶  
○8月きりじまの蝶

角 園 栄 男氏 ○泊野小学校より紫尾山頂にみられる蝶  
○紫尾山麓(泊野小学校を中心とした一帯)に見られ  
る蝶

なおこれらの外鹿児島昆虫同好会の次の諸氏原稿がみられます。

竹 村 芳 夫氏 ○郷土の昆虫図説  
二 宮 裕 氏 ○二頭目のタッパルリシジミ  
岩 淵 文 人氏 ○オジロシジミに関して  
竹 村 芳 夫氏 ○鹿児島地方のトンボ Ⅲ  
福 田 晴 夫氏 ○高隈山で採集した蝶類数種

SATSUMA 編集者 福田晴夫 事務所 鹿児島農業高校

◇ 「新昆虫」vol. 2に、この同好会が紹介されてから 次の諸氏から連絡照  
会がありましたので 記しておきます。

○ 徳島市中央通り三丁目 富田小学校教員 古出俊子氏

○ 鹿児島市柱吉町 岡山大学大原農業研究所 守江安宣氏

なお同氏から ○ヤサイゾウムシの生態に関する研究 第1報

○本州西南部におけるニジュウヤホシテントウに関する新

知見 ○シルビアシジミの分布とその食草について。

等、四つの原稿の寄贈をうけました。厚く感謝致します。

○ 熊本昆虫同好会(熊本市大江町渡鹿 大塚勲氏方) から 熊本昆虫同好会報  
の寄贈をうけました。厚く感謝します。 (了)



# 霧島蝶採集記

佐竹 新

きりしまに はじめて行ったのは 1956年9月23日で その時は妻と一緒に定期的にもおそかったせいもあって 大浪池登山口附近の暗い樹林でクロコノマを5頭とらえたにとどまったが こんどは1年後の8月2日だった。川内を出る時は全くの日本晴 西鹿児島駅で汽車からおりると 前夜から鹿児島市に先行していた永田氏(龜山枝敷君)が待居室で「ヤアー」と待ちかねたように意勢のよい声で手をふった。

バスは美しい錦江湾をひとめぐりし やがて紫色にかすむ櫻島を視界から没し去って一路霧島山麓へ…… まぶしい真夏の陽光がはねかえっている神宮前についたのは午前11時 急いで網をはって戦闘準備 境内をぬけつつある時 砂利の上に薄茶のシジミチョウを発見 あわててあみをかぶせたが それより早く件の蝶は アツという声に飛び去った。ウスイロオナガ?との疑いが私の胸をあやしく高鳴らせる。ナガウキアゲハ、クロアゲハ カラスアゲハ……と神宮一帯はアゲハの楽園だ。イシガキチョウも地面ひくく滑翔し 「とった」と叫んだ永田氏の網の中にはウラギンスジチョウエンが……すべり出しはまず好調と四圍を警戒しつつ足も軽く宿望の高子穂峯へと目指す。キリシマミドリカ ヒサマツミドリカ 宝石にもなぞらえ得る斑蝶の幻影が光る木の間に そして梢に舞い上る。だが山がふかまると共に晴れ間は減る一方 遂には小雨がぱらつきはじめた。永田氏も「残念だなあ」を連発する。登りばのぼる程 蝶らしきものの影とともなく やがて霧が2人を包みはじめた。何と云う不運なことだろう。……と暗然となる私達に霧は容赦なく濃度をまし 小さなニワカ雨さえ時折 おそってくる。小さな黒い蝶が道を横切ったので網をふる。ホソバセセリだ 見ると そこにもここにも同じ蝶がとんどり止ったりしているのだ。勢づいた2人は歓声をあげながら網を振る。平地では味わうことのできない霧の中での採集だ。2人目わせて 3の頭近くのホソバセセリが三角紙の中に入った。高子穂登頂はもはやあきらめぬばなるまい。永田氏と古し記憶

をたよりに路を高千穂河原へととる。

観光道路へ出たヒタンウラギンヒョウモンが網に入った。霧はや、晴れはじめでルリタテハが樹林に見えては消えるのを見て望みなきにあらずと二人とも同時に同じ言葉を口に出して大笑い。河原近くで網をもった高校生の一団と出た。神宮を出て以来はじめて逢う人だ。不思議な親しみを感じる。「たいしたものとはけません。ゼフィルスも全然だめです。」と云う。甲南高校の生徒たちの由。健斗を祈りながら別れる。雨は上ったが二人とも汗だくだ。視野が急にひらけたと思うと高千穂河原に出ている。霧がかなりの速さで流れていて美しい。昼過ぎと云うのに早朝か夕暮れのような感じだ。小径で昼食をすませ一帯を歩き回る。ゴイシジミ1羽のほか ウラナミジャノメ イチモンジがとれた。霧がはれたり 濃くなったりする道を湯の野に向う。河原から約100m来た一帯で永田氏がクモガタヒョウモン1子を捕獲、私は私でジャコウアゲハと誤って捕った網が 昆亭なオウガアゲハだったので思わず歓声をあげる。このあたり名の知らぬ草花が咲いていたので ジャコウ カラス クロのアゲハたちが求愛に飛来しきりにあみに入ったが、これまでの大きな収獲は キバネセセリ1羽とサカハチ1羽。「福田晴夫氏」の「鹿児島県の蝶」をよんでいたのも、こまから湯の野までの道は期待でいっぱいになる。だがさっきから鳴っていた遠雷が次第に近づいて やがて目前で鳴りはじめた。弓にも崖が落ちそうな崖道を急ぐうちにも キマタラヒカゲ ウラギンスジヒョウモン イシガキキョウが網にはいる。雷鳴の中の蝶採集は場所が場所だけに気味がわるい。河原をとおさるにつれて雨足がひどくなる。二人ともずぶぬれのまま収獲もなく よろめくように湯の野についたのは午後3時ごろであった。そこから旅館のある硫黄谷まではふったり止んだり 時々アサギマダラが優美な翅をほこらしげに 修成と樹前を飛翔しているのに出会うが 疲れとヌカルミにさまたげられてとれない。かくて10キロ位の山道をこえてオ1日の採集行でいっぱいになった三角峠ととも夕刻宿舎へ-----。



明くれば 快晴 硫黄谷は体をもそめるような深いみどりにいろどられていた。号曰  
こそは……とはずむ胸をおさえながら林田温泉のうらへど 互争中の道路をすすむ。オ  
ナガアゲハ アサギマダラ モンキアゲハ ジャコウ ウラギンシジミ サカハケらが  
ががやかしい夏の午前をたのしんでいる。あてにしていた大浪池登山口の暗い樹林には  
蝶らしいものの影はなく ましろ引返した入口の明かるい道路付近がはなやかな蝶の乱  
舞地帯であつた。ルリタテハ イチモンジ・サツマシジミ イシガキ コミスジ ナガ  
サキ ジャコウ モンキアゲハなどここも盛夏の蝶のパラダイスだ。林田温泉一帯の山  
向では ジャコウアゲハがいくらでもとれる。ミヤマカラス ジャノメチヨウ ぞして  
オナガアゲハ とくにオナガは 林田温泉の車溜りに近い谷間ではかなり目撃 はじめ  
はジャコウとの区別がつかなかったが その内にオナガの産卵はジャコウより やや活  
発であることに気がついた。糸羽中の黒色も濃い。キマダラヒカゲは車溜りの付近のゴ  
ミ捨て場の一帯ではいくらでもとれる。観光客のスボンやスカートに止ったりしてなか  
なかのアイキヨウモのた。大浪頂上の方からまざましいはやさで降りてくる銀色のシジ  
ミチヨウを目撃したが種の判定もできない。キリシマミドリ? 時間と暇のないのがお  
しまれる。せめてあと1日ここにいらることができれば 大浪からから国へと登ることが  
出来るのに…… はげしい二ツカ雨が突然私たちをおそってくる。私たちはもはや帰  
らねばならぬ。カツと照りつけたかと思うと こんどは頬を叩く二ツカ雨なのだ。

わがて私たちは つきぬ名残りをおしみながらバス上の人となる。二人がこの二日間に  
得た蝶は38種にのほり ゼファイルスこそとれなかったが 成果はまず上戸と云うと  
ころだ。家には中学生たちが 早くからやってきて 私たちの帰りを待っていること  
であろう。牧園をはなれてしばらくしてふりかえると ところどころに白い雲をかむつた  
きりしまの山なみが さんさんとふりそそぐ光りの中に淡いみどりの姿体を横たえてい  
た。 母のような やさしい山肌よ 天へとつらなる わが多彩な蝶たち  
の宝庫よ さらば。私はそんな文句をつぶやいたりした。

(筆者は 川内昆虫同好会顧問 毎日新聞川内通信部主任)



沱野小学校から紫尾山頂間に

見られる蝶。

昭和32年8月9日 7:00~16:00

調査 川内市立北中学校 生物クラブ

記 角園栄男

1. アゲハチョウ科

ジャコウアゲハ アオスジアゲハ ナミアゲハ キアゲハ

クロアゲハ モンキアゲハ カラスアゲハ

2. シロチョウ科

キチョウ ツマグロキチョウ スジクロチョウ モンシロチョウ

3. マダラチョウ科 アサギマダラ

4. テングチョウ科 なし

5. ジャノメチョウ科

ヒメウラナミジャノメ ウラナミジャノメ ヒメジャノメ コジャノメ

キマダラヒカゲ クロヒカゲ クロコノマチョウ ウスイロコノマチョウ

6. タテハチョウ科

クロコムラサキ コムラサキ コマダラチョウ スミナガシ イシガ

キチョウ イチモンジチョウ コミスジ アカタテハ ルリタテハ

ツマグロヒョウモン

7. シジミチョウ科

ツバメシジミ

キリシマミドリシジミ ムラサキシジミ ムラサキツバメ ウラナミシ

ジミ ベニシジミ ウラギンシジミ アマトシジミ ルリシジミ

8. セセリチョウ科

クロセセリ

ダイミョウセセリ アオバセセリ キマダラセセリ コチャバネセセリ

1. サカハチチョウは 5号目附近の樹上に群生しているのを発見
2. キリシマミドリシジミは 6号目付近の林道をとんでいるのを発見 10体数多し。
3. 8号目付近の楡樹林に於て ジャコウアゲハ クロアゲハが早く群がっていた。
4. アサギマダラは9号目付近から山頂迄 ものすごく分布し 本日8頭を採集す。
5. ミドリシジミ早らしきもの1頭 工宮南西の樹林で採集したが前肢大破して残念。
6. イシガキチョウは4号目付近から6号目四り近のタブの木に群生
7. オオイテモンジに似た蝶が5号目あたりのイシガキチョウの群がる同場所前木に止つていているのを発見したが採集出来ず残念(樹種不明 ガケの高さ5m位 樹高30位)
8. 山頂には キアゲハ カラスアゲハ ツマグロヒョウモン キマダラセセリの10体数多し
9. モンシロチョウの10体数少し。



## 蝶の発生を待つ採集子

主に春型の発生を中心として。

かけ出しの 蝶採集子のわかれは どうも蝶の発生がまちどおしい。冬の昆虫採集や生態研究などはどうも興味がうすいようである。そこで 蝶採集の手引きとでも云わうか その出現発生を旬別にしらべてみた。勿論本でしらべたのだから 事実といくらか異なるであろう。それはそれとして一つのテーマが生れよう。文庫は 保育社版 原色日本蝶図鑑 である。

記 永 田 幸 吉

まずはじめは 2月 からいこう。

( ) 中の数字は1年の発生回数

南国では モンシロチョウ (7~8) P. A  
 がいる。又ウラギンシジミの成虫(越冬した  
 もの)も 暖い国は出るかもしれない。(3  
 月と同じ)

L は LARVA 幼虫  
 E は EGG 卵  
 A は ADULT 成虫  
 P は PUPA さなぎ

越冬の  
状態

3月 キチヨウ(5~6)P. A. ツマキチヨウ(1)P. コツバメ(1)P. ルリシジミ(4~5) ミヤマセセリ(1)L. などであろう。特にツマキチヨウは年1回この時期に発生するだけであるから採りおどないように。

4月上旬 アゲハ(4~5)P. キアゲハ(3~4)P. モンキチヨウ(4~5)P. ヒメウラナミジャノメ(3~4)L. ムラサキシジミ(4)A(母蝶がでる) クロセセリ(3~4)P.

4月中旬 ミカドアゲハ(3~4)P. キマダラヒカゲ(2)L. P. コミスジ(3~4)L. ツマグロヒョウモン(4~5)L. ムラサキツバメ(3~4)A 母蝶が出る。ベニシジミ(4~5)L. アマトシジミ(4~6)L. サツマシジミ(3) アオバセセリ(2)P. コチャバネセセリ(1)P.

4月下旬 ジャコウアゲハ(3~4)P. アオスジアゲハ(4~5)P. クロアゲハ(3~4)P. ナガサキアゲハ(4~5)P. オナガアゲハ(2)P. カラスアゲハ(3)P. ミヤマカラスアゲハ(2)P. スジグロチヨウ(5~6) コジャノメ(2)L. クロヒカゲ(3~4)L.

5月上旬 ヒカゲチヨウ(2)L. サカハチチヨウ(3)P. オオルリシジミ(1)L. チャバネセセリ(3~4) イチモンジセセリ(3)L.

5月中旬 モンキアゲハ(3)P. アサギマダラ(2)P. ヒメジャノメ(3~4)L. スミナガシ(2)P. イシガキチヨウ(腹型)(4)♀Adult. イチモンジチヨウ(3)L. ホシミスジ(1)L. クモガタヒョウモン(1)L. ゴイシシジミ(3~5)L. ダイミヨウセセリ(3)L.

5月下旬 ゴマダラチヨウ(3)L. ヒトドシチヨウ(1)Adult.

6月になると ツマグロキチヨウ(腹型 2)Adult. テングチヨウ(リウラナミジャノメ(2)L. ヒメキマダラヒカゲ(1)L. クロゴノマチヨウ(3)腹型 L. A. クロコムラサキ(2)L. コムラサキ(3)L.



キタテハ (1) 夏型 Adult アカタテハ (3) Adult ヒメアカタテハ A.  
 ルリタテハ (2) ♀ Adult キベリタテハ (1) Adult ウラギンヒョウモン (1) L  
 オオウラギンヒョウモン (1) L ウラギンスジヒョウモン (1) E  
 ミドリヒョウモン (1) L メスグロヒョウモン L ホソバセセリ (2) L  
 6月までをひろい出してみると大体以上のようなになる。又 Adultのまま冬眠越冬した蝶は 気温や時間の変化でその出現がちがってくるから 恒に注意したい。(タテハの類) なお迷蝶 尺蠖の類も大いに気をつける必要がある。昨年の会員の標本には春型がいくらか少なかったように思われる。早目に採集に取りかざる必要がある。  
 鹿児島市郊外吉野は ナノハナがすでに咲いたと云う。2月には11ってちよっとあたたかい日は 最高気温が15~16°になる。風向とうのつめたさ 肌を感じるあたたかさ 観察のまなこをあるとくし 用具の手入れもおこたりにく 蝶の出現をまとう。

(川内市立壘山小学校 勤務)



## ~ 雑 記 ~

○川内市立 北中学校 生物クラブ作の「川内周辺の蝶の分布について」の記録が 昭和32年度 鹿児島県理科記録展で 特選に入賞しました。蝶の食草 高度 生態 生息状況 などあらゆる点から究明した内容は 審査員の興味をひき 折紙つきの研究記録として賞さんされた。

又 同生物クラブ員の標本も 鹿児島県昆虫標本展で大賞入賞したことは 担当の角園先生の指導もさることながら 同クラブ員の努力のたまものと県員一同喜んで いる。今年度の活躍を期待しよう。

○Zizina otina emelina シルビアシジミの県内分布について、  
 前述紹介の 安江安宣氏(岡大天康農業研究所)によると シルビアシジミの 鹿児島県下の記録は、

|            |      |      |          |
|------------|------|------|----------|
| そお郡志布志町安楽  | 1951 | 福田氏  |          |
| “ 西志布志町蓬原  | 1956 | “    |          |
| “ 比羅島      | 1956 | “    |          |
| 肝属郡位尋町     | 1953 | 朝比奈氏 | 1955 福田氏 |
| 川辺郡坊、津村久志  | 1955 | 岩淵氏  |          |
| “ 山川町      | 1956 | 溝口氏  |          |
| 熊毛郡種ヶ島西、衣町 | 1951 | 新川氏  |          |

となっており 福田晴夫氏著「鹿児島県の蝶によれば「県下での食草は ミヤコグサの外 シロハギ コマツナギ が考えられる」とある。この蝶は ヤマトシジミに似ているので混同するむきもあるかも知れないが「カタバミの無いところにいるような ヤマトシジミ?は沢山とった方がよい」とあるのは留意すべきであろう。採集時の細心の注意が所要であろう。

## 2月16日 蝶初見

2月16日午後2時 川内市向田町竹の馬場の路上で 迷っているが如くとんでいる蝶を発見 すぐ自転車を止めて追ったが ネットももっていないし 遂にとりにがした。とび方は ツマキチョウではなく 鮮明で目を射るような黄色のはねと そのとび方からして 今春羽化した モンキチョウであろうと思った。多分発生地は その地点から約500mは離れた 清水ヶ丘であろうと思われる。当時は 気温12℃ 風力4 風向NE 前夜の最低気温 -2.1度であった。なお 雲量3 で天気は晴

今後 昼間の最高気温は 晴の日で 12℃から 15~16℃まで上るし 十字科植物も南北するから 採集 観察の用意を急いでほしいものだ。 (永田)



## 編集後記

※ 1958年新春号R 会員の甲で 越冬号発行の話があり そのつもりでいたのであったが 学校関係の行事におわれおそくなってしまいました。

ここに われわれの「すみながし」 オ2号をお届けします。

何とかして フリント屋にでもたのんで そつと体裁のいいものを出したかったのですが 何しろ金のない屋ですので 素人作りの格好のわるいものになってしまいました。内容で御勘弁ください。

※ 本年は 本会ができて 2年目…… 採集に 生態研究に 蝶以外の昆虫へと ぞつと能を出そう。 それにしても考えることは 小中学生は充分だが 高校生一般同好者がすくぬのは残念である。早くなんとかして それらの同好の志をさがし出し 同じ目的をもつ同好のグループの一員として活動したいものだ。

※ このオ2号が 本年度 川内昆虫同好会の活動のはじまる契機となるように希望し 又 諸氏の御健闘を祈りながら筆を揃く。

昭和33年2月16日

編集発行者 永田幸吉

発行所 川内昆虫同好会

川内市宮内町 亀山小学校内





Sumenagasc Vol2 No2 1958 January